



発行所 交通新聞社
 東京都千代田区神田駿河台
 2-3-11 NBF 御茶ノ水ビル8階
 〒101-0062 6570編集局
 電話東京 6571 F A X
 (03)6831 6622販売部
 定価1月 2314円(税・送料)
 1部82円 振替00160-2-58712

©交通新聞社2018

のり面異常通知システム開発

サイナップ・従来型より大幅コスト減

ICT(情報通信技術)ベンチャー企業のアイ・サイナップ(東京都港区、江藤潔社長)は、のり面崩壊などの異常情報を専用無線通信ネットワークで知らせる防災システム「ミテテル」を開発、鉄道事業者向けに提供する。ビッグデータを活用した次世代型監視装置で、テレビカメラで撮影したり斜面に張った電線の切断で異常を感知する従来型に比べ、設置や維持管理コストを大幅に抑えられるのが最大のメリット。最近では台風や地震など自然災害が多発傾向にあり、同社は新製品を通じて鉄道の安全・安心向上に貢献する。

重力、振動・動作、衝撃の組み合わせで異常を感知する加速度センサーの情報を、少量情報通信に特化した専用通信網で送信する仕組み。センサーが

装置が大型化して通信コストも高額な従来型に比べ、維持コストを大幅に抑えられる。収集したセンサー情報は基地局に集積、インターネット経由でクラウド配信する。リアルタイムの情報に加え、利用区間や時間帯を把握するといったデータ解析にも対応する。

「ミテテル」の応用範囲は広く、橋りょうや建物(駅舎など)、倉庫、看板、鳥獣害などの監視にも活用できる。鉄道業界では業務効率化の流れに呼応して、従来の人手に代わりセンサーで常時異常をチェックするセンサーリング技術利用の「状態(常態)監視」が普及しつつあり、ミテテルもその

信装置を収める。設置は斜面に杭を埋め込むだけでOKで、面倒な配線は不要。消費電力がわずかなので、単3乾電池3本で1年間以上稼働する。

さらに最大の特長が通信システムで、フランスのSIGFOX(シグフォックス)社が開発した新しい通信サービスを利用する。日本では2017年(平成29年)初めに提供が始まった新サービスはデータ通信利用に特化。携帯電話基盤利用で

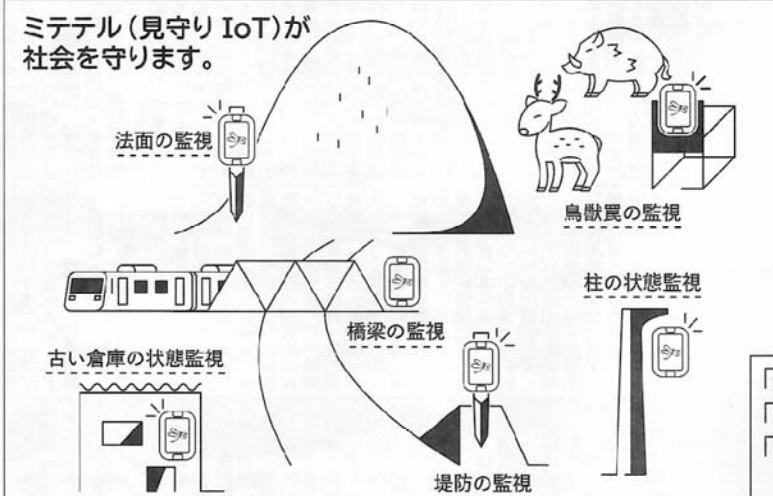
「ミテテル」の「見てま」は、2001年に設立されたアイ・サイナップは大手のヤシマキサイと提携し、同社のネットワークで販路を開拓する。ヤシマキサイは9月18〜21日、ドイツ・ベルリンで開催された世界最大の鉄道見本市「イントランス2018」に出展。ミテテ



イントランス2018会場に展示された「ミテテル」

電池駆動、通信機能内蔵のIoTデバイスで異常情報を直接クラウドに通知!

取扱い：株式会社ヤシマキサイ
 問い合わせ先：営業経括本部 プロジェクト開発推進部
 〒103-0026 東京都中央区日本橋兜町6番5号
 兜町第6平和ビル
 Tel: 03-6758-2560
 JRC: 057-3481
 製造：アイ・リナップ株式会社



傾斜・衝撃センサー、位置情報(オプション)を設置するだけで1年以上バッテリー駆動します。通信方式は料金の安いSigfoxとKDDIのLTE-Mを選択できます。
 ※本デバイスでは通信料金とクラウドサーバーの利用料が発生します。

ルも世界にお披露目された。江藤社長は、鉄道業界のすき間産業を自認。「これからもICTやIoT(モノのインターネット)で、鉄道業界の進化に貢献したい」と話している。